

ワンコイン浸水センサ実証実験について

1. 実証実験の目的・趣旨

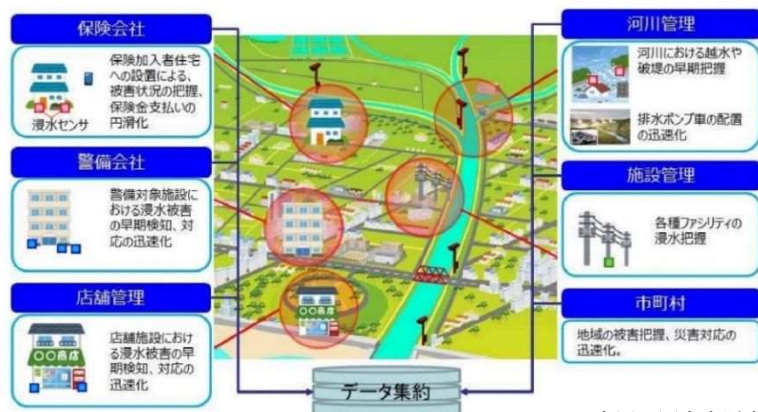
近年、大雨による浸水被害や河川の氾濫が頻発しており、浸水の状況を迅速に把握し、災害対応を行うことが重要となっております。そのため、センサを用いてリアルタイムに浸水状況を把握する仕組みの構築に向けて、民間企業と国や自治体等の様々な関係者がセンサを設置し、センサの特性や情報共有の有効性等を検証する実証実験を実施しています。

国土交通省にて公募している「ワンコイン浸水センサ実証実験」に応募し令和7年度新規参加者として採択を受けました。（市内10か所にセンサを設置）

（参考）浸水情報の活用イメージ

国土交通省

■堤防の越水・決壊などの状況や、地域における浸水状況の速やかな把握のため、浸水センサを企業や地方自治体等との連携のもと設置し、情報を収集・共有する仕組みを構築



出展：国土交通省 HP

○ワンコイン浸水センサ

小型で長寿命かつ低コストなセンサ及び受信機で浸水の状況が把握可能な検知システム。



2. 実証実験の概要

国土交通省が用意したセンサを浸水の可能性がある地域に設置し、リアルタイムに浸水の有無を把握するとともに浸水データを国土交通省及び他の実証実験参加者と共有する。

浸水センサ	国土交通省が提供
設置・管理	恵庭市
浸水情報	国土交通省及び実証実験参加者で共有 進捗に合わせ国土交通省のWEBサイトで一般公開
費用負担	国：センサ及び初年度のランニングコスト 市：設置費及び翌年度以降のランニングコスト

令和7年度参加者：232自治体

うち新規参加者：70自治体

3. 期待する効果

大雨時には職員によるパトロール及び市民からの通報により道路の浸水状況を確認し排水作業や通行止め等の措置を行っていますが、浸水が想定される箇所にセンサを設置し浸水状況をシステム上でリアルタイムに把握することができることにより、浸水発生時の通行規制や迅速な現場対応が可能となり、道路利用者の安全確保、浸水被害の防止・軽減が期待できる。

